

世襲政治家が なぜ生まれるのか？

福田 博 著

日経BP社
1680円

本棚から一冊

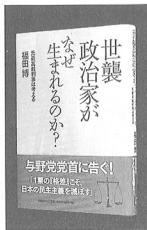
民主主義は日本の国
是である。しかし、そ
の根幹がおろそかにな
っていないか。いわば
「一票の格差問題」は
選挙無効の訴訟への判
決が出るたびに報道さ
れるが、その内容をよ
く理解している人は少
ないのではないだろう
か。本書は最高裁判所
判事として判決に直接
関わった著者によら
なければ現場からの痛切
な問題提起である。

参院については6倍
まで、衆院については
3倍までの投票価値格
差を地方代表性の考慮
や選挙制度の技術的理
由により、国会の裁量
の範囲内として容認し
ている最高裁の多数意
見に対し、一貫して反
対意見を述べてきた著
者の見解が示される。



評者 早稲田大学大学院教授

川本 裕子



最初に基本的論点が
わかりやすく解説され
る。国会は国権の最高
機関であり、その権威
は国民の付託を受け
ている点に由来する。
しかし、国民間の投票
価値の格差の存在は多
数決原理で決定を行う
国会が国民意思を正し
く反映していないこと
に直結し国会に対する
国民の不信を招き、統
治システムが空洞化し
ないか。日本の政治の
現状は現職の国会議員
の世襲による既得権益
の維持が一般化してお
り、投票権平等を確立
して歴史上初めて黒人
の大統領を選出し、社
会変革を追求する米國
に比べ、自浄能力を喪
失しているのではない
かと著者は指摘する。
これに続くのは最近
の最高裁判法における
反対意見の紹介であ
るが、前段の解説では
あるが、前段の解説を
読んでいけば無理なく

日本の民主主義の基本問いかける

理解できるし、国際比
較や選挙制度の技術的
問題、司法による違憲
立法審査権の意義な
ど、広範な論点を取り
上げられる。例えば、
よく議論される「選挙
区間の最大一票格差」
は問題の一面に過ぎ
ず、全選挙民の三分の
一程度で過半数の議員
を選出できる状況など
一層深刻な側面があ
る。米欧の民主主義國
家では格差ベースで言
えば1.5倍の範囲が
許容限度という厳格な
考え方が確立されてい
て、日本の衆院3倍・
参院6倍のような議論
は全くの域外にある。
著者は外務省の条約
局長、総理大臣秘書官
など行政の中核を歩い
た後に、司法の最高位
に身を置いた。本書全
般を通じ、国を愛し、
今を憂う情が直接伝わ
ってくる。日本の国の
基本について今一度深
く考えてみたいといっ
う人に必読の本である。